

ロマンは実を結ぶ

京都地方本部 草津保線区分会

No.358

私たちが、京都地本滋賀支部草津保線区分会には60名の

組合員が所属しています。うち18名がシニア、50代40代が11名、30代は16名、20代は15名で構成しています。分会の活動はスポーツイベントを中心に行っています。



スポーツレクを中心に組合員の絆を深めています

草津保線区は2023年に、湖西保線区と統合になり、滋賀県のほぼ全域に職場が広がりました。現場組合員の声に耳を傾け、分会組織を中心として

活動を継続していくには、旧組織を維持した方がよいという議論の結果になり、旧組織で継続して運動を実施しています。職場同士の距離も遠いことから、執行委員長同士、密にコミュニケーションを取りながら、より良い職場環境づくりが進むように努めています。

京都地本主催「ソフトボール大会」が昨年、滋賀県の長浜ドームにおいて行われ、組合員同士の交流を深めるため、草津保線

組合員同士の絆を深め、気兼ねなく話せる分会へ

区分会と湖西保線区分会合同で試合に臨みました。

結果Aチームは2回戦、Bチームは1回戦敗退でしたが、Bチームの試合は、打撃戦で点の取り合いで見ごたえのある試合でした。

Aチームの試合は、執行委員長がチャンスで凡退し点が取れず、またファースト向の守備のエラーにより、相手点を与えたこともあり、悔しい敗戦となりました。

夜は懇親会でお酒を交えてコミュニケーションをとることで、交流がさらに深まりました。向は結果を残せなかったため、監督からA↓Bチームへ降格(笑)を言い渡され、

宮島フェリー支部 主な受給項目と内容

- ベースアップ→職務遂行給に12,500円加算
- 年間臨給→5・6箇月分(夏季、年末ともに2.8箇月分)
- 繁忙期手当(年末年始・GW・盆休み・紅葉シーズン)を新設→社員・準社員とも1日あたり1,000円(3船運航実施日に限る)
- 一交手当の増額→1,200円から1,500円に増額
- 契約社員基本給改訂→12,500円の加算
- 準社員の時給改訂→準社員時給を70円引上げて、時給1,120円に
- 扶養手当の支給要件見直し→扶養親族の範囲に同性パートナーを配偶者と同等に位置付けて支給
- 育児・介護休業法の改正対応→法改正に合わせて必要な変更を実施
- 育児・介護休業の欠格条項について→育児・介護休業について、賃金規程並びに船員賃金規程の昇給欠格条項及び昇給控除額から削除

宮島フェリー支部は、2月25日(火)にベア18,000円、年間臨給6.5箇月をはじめとする2025春闘要求書を提出して以降、JR西日本宮島フェリー会社と交渉を進めてきた。

「今年度の船舶事業収益の好調は、インバウンド旅客の増加に伴う結果であり、国際情勢の変化に大きく影響し、今後の推移は不透明であり、コスト増加も不可避であり、経営への影響は大きい。しかし、社員の皆さんが地道に努力を

積み重ねてきたことに対する感謝の想いと安全性向上をはじめとした更なる意欲向上に期待する」とし、職務遂行給に一律12,500円の加算と年間臨給5・6箇月をはじめとする回答を引き出し、妥結した。

宮島フェリー支部2025春闘妥結 ベア12,500円・年間臨給5・6箇月

JR西労組議員団会議所属議員が発言 山下隆夫議員(下関市議) 柿本忠則議員(広島県議)が登壇する



激励に訪れた広島地本と山口第一支部の仲間と山下議員(右から2人目)

開について、市の考えを問いただした。さらに、「JR山陰本線利用促進協議会」の構成は、沿線自治体4市1町と山口県、島根県に加えて、JR西日本での構成となっているが、「地域住民やJR西日本以外の民間事業者も巻き込んだ事業へとブラッシュアップさせる必要がある」と山陰本線の利用促進をはじめ、公共交通機関の人材育成などについて、発言を行った。

- 業務について
1. 公共交通機関整備推進
 2. 山陰本線の利用促進
 3. 有馬島獣捕獲業務について
 4. 学校体育施設開放事業について

公共交通への財政支援と新病院の基本計画を質疑する 広島県議会・柿本忠則議員

JR西労組議員団会議所属の柿本忠則議員(広島県議)は、2月25日(火)に開かれた令和7年2月定例会において一般質問を行い、広島地方本部と全ての支部、中本、地本や広島地本退職者協議会が傍聴行動を行い、組織内議員の激励を行ったほか、地元での支援者の方も多く

激励に駆けつけた。柿本議員は、公共交通への財政支援の考え方について、「クロスセクター効果などを用いて、多面的な視点で検証の必要性」、また芸備線再構築協議会について、「地域が利用しやすく、持続可能性の高い交通体系を実現すべく、より建設的意味のある議論をする必要がある」と訴えた。

さらに、広島病院支部の組合員が転籍する新病院については、「転籍及び退職者の現状、必要な人員の精査や要員確保および配置の具体的な計画の

策定計画について県としての見解を確認した。(柿本議員の発言要旨)

2. 子育てしやすい環境づくりについて
3. 誰もが安心して活躍できる社会の実現について

6. 新病院について
(1) 新病院の基本計画について

那珂川市議会議員選挙 JR西労組議員団会議 羽良和弘氏 激戦を制し4期目の当選を決める

3月23日(日)開票の那珂川市議会議員選挙において、JR西労組議員団会議所属 羽良和弘氏(現)の再選をめざし、3月16日(日)告示日から、福岡地方本部と博多総合車両所支部が中心に献身的に選挙戦を支援した。

今回は、定数17名に対し22名が立候補する厳しい選挙となった。出陣式から連合の働く仲間や多くの支援者が必勝に向けて激励に訪れた。羽良和弘候補は「すべての人にやさしいまちづくり」「人権や教育、福祉や災害対策」などの訴えが有権者に届くとともに、3期12年の実績が評価され、682票を獲得し、4期目の当選を果たした。引き続き、私たちと政治との関わりや重要性について理解を深めることとする。



ウエスト君

中野リキ (NO375)

